## 凡納

一、本誌の編成は、「自然環境」「歴史」「産業」「地方自治」「教育」「民俗・文化」「未来の丹原町」「年表」の八編と した。

但し、「未来の丹原町」は、町内の小中学校児童生徒の入選作品及び絵画で構成した。

- 、人物編を設定せず、該当の編にその略歴を記載した。
- 、各編の記述は、章・節・項・目で構成し、項・目の文字は省略した。
- 本文は常体とし、常用漢字・現代仮名づかいを原則とし、読みの困難なものには、 ふり仮名をつけた。
- 、引用文や参考事項等は、本文より小さい活字を使用した。引用文は、 読み下し文にしたり、 句読点を施す等して読み易くするように努めた。 なるべく原本に即し、古文書については、
- 一、執筆に際して活用した資料名は、各編や章の末尾に掲載した。
- 一、索引は、省略した。
- 一、本誌の執筆者名は、巻末に一括して掲載した。

天気に関する俚言	第五節	=		帯	世	2
気温・降水量・天候	2				人	1
概 况	1	·······		世帯	人口:	第三節
気 象	第四節	·····		穫	面	3
中央構造線	第三節	  		界	境	2
千原鉱山	9	1254		置	位	1
断 層	8	; ; ; ;		• 境界 • 面積 …	位置・	第二節
第四紀層	7	: : :		丹原町の沿革	丹原町	第一節
第三紀曆	6	: : : : : : : : : : : : : : : : : : :		丹原町の概観	丹原町	第一章
結晶片岩地帯三	5			ţ		多一家
和泉砂岩層地帯	4			<b>景</b> 竞	自然	<b>第一漏</b>
古成曆(顀家変成岩)地帯10	3				ν.	凡 例
花崗岩地帯	2	点 道	日	光房田 記棋学委員長		集に掛
概	1	1 和	音管	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ے	およろこのことは
地 質	第二節	敬籍	ぎ 佐 伯	<b>丹京丁氏会践</b> 是 丹原町長	) て	発刊にあたって
地 勢	第一節		: !			 
丹原町の自然	第二章				欠	Ē

目 次

天 1

大化改新前の伊予国	1	植物の分布	第三節
律令国家時代の郷土 …	第三節	両 樓 類	
お筆山古墳	4	则 虫 蹼	5
古田の古墳の発掘調査	3	魚 貝 蹼	4
丹原町の古墳	2	昆虫 類	3
古墳文化の時代	1	鳥 類	2
古墳時代の 郷土	第二節	は乳類	1
弥生時代の郷土	3	動物	第二節
縄文時代の郷土	2	概	第一節
先土器時代の郷土	1		多二章
原始時代の 郷土	第一節		<b>第三</b>
りが一て分言	- -	災害。史	2
原始・与弋の耶ヒ	第一章	概 要	1
歴史	第二編	自然災害	第六節
		気象に対処する体験	4
群 落	2	生活経験	3
天然記念物	1	<b>象</b> 現	2
特殊植物	第四節	動物関係	1

第二編 歴 史第二編 歴 史第二編 歴 史第二編 歴 史第二編 歴 史 1 先土器時代の郷土							ж0				· <del>2</del> 6		体験		<del></del>		
大然記念物	4	4	3	2	1	第二節	3	2	1	第一節	二章	一編		2	1	第四節	
<b>查金克夫夫农交</b> 农农农														落		特殊植物	

.....

		第								夸	育	第			第		
2	1	第二節	7	6	5	4	3	2	1		百	第二章	2	1	第四節	3	2
得能通綱の最期	建武の中興と土居・得能氏	南北朝時代の郷土	感神院領古田郷と農民	西山興隆寺の銅鐘	元冦と河野通有	承久の変と得能氏	源頼朝と西山興隆寺	伊予国の守護について	守護と地頭	金	兼含寺弋の邸上	中 世	源平の争乱と河野氏	河野氏の台頭	河野氏の台頭と源平の争乱	条 里 制	大化改新後の郷土
贾	三	124	壳	픚	量	臺	三	- - -	1	5 8		콩	픚	풀	薑	ᇹ	=
3	2	1	第二節	第一節	第三章	7	7	6	5	4	3	2	1	第三節	5	4	3
3 代官所の設置と郷土	2 藩政の推移と地坪	1 伊予八藩の成立	第二節 江戸時代の郷土	第一節 天正の陣と郷土	第三章 近 世	丁廿の子原田の女食島		6 松本豊後守に関係のある史跡	5 戦国時代の郷土	4 渡部公広と丹波神社	3 河野明生と瑞巌寺	2 河野通生と報恩寺	1 応仁の乱と河野氏	第三節 戦国の争乱と郷土	5 西山興隆寺の棟札	4 細川氏の伊予国侵入と郷土	3 征西将軍懐良親王の下向と郷土の宮方

				勞	色							<b>45</b>	第丘布				第四節	
4	3	2	1	う食	<b>再</b> 一	6	5	4	3	2	1	負	布	3	2	1	節	2
果	雑	麦	稲	是莲牛	豊全勿り安器	農村の副業	病虫害防除	農機具の移り変わり	新田開発	農業経営の移り変わりと開拓	農業の変遷	日天日	昭和寺代の農業	自作農創設と更生	小作争畿	農村恐	大正時代の農業	増産と戦争(日清・日露)
樹…	榖…	作	作	3	りだ	業	除	移り変	発 ::	の移り	遷	1	代の	設と軍	<b>議</b>	慌	代の	争合
	•		作	ż	<u></u> : :			入わり.		変わり		月主	愛業・	生…				清・
								:		りと開					:			露)
:		:								拓	i							
:		:									:							
里	哭	四至	罴	!	毁	盟	贸	哭	量	쯧	売		<b></b>	춫	풋	둪	芸	品品
	hdx																	
第一節	第三章	9 ナ食	度 L	-		•	•	•	第八節	: 8		2	1	第七節	8	7	6	5
				5 ≆ı	4	3	2	1 行							露			發
森林の分布と経営概要	林		马克	国軍補助事業.	土地改良区	その他の団体…	<b>股会・産業組合・農業会・</b>	行政関	農業	超組		多のな	戦前の畜産	畜	地野	施設園芸農業	工芸作	蚕
の分を		世是	[ ] 皇	<b>助事業</b>	艮区	の団体	産業組	係	業団体			全 全 :	<b>強産</b> …	産	菜	云農業	物	<b>業</b> :
布と経	業 …	· 5	た り 民				合。曲			見	F F					i		
営概		į	<b>趸</b> ::	•			脱業会			42	Zj							
要:							協同											
	業		予記「豊美の曼星」				協同組合…			資政総合と家畜司場・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		戦後の奢産					物	業
芝	美二			・	· \	至量	至	· 旁					· 图	· 医			野	· 空

三十二	地租改正の影響	章 1	即 道路の発達	第一節
프	明治時代の農業	<sup>三</sup> 第三節	交通・通信	第一章
충	町内の主な水利とその沿革 『	2	道	第三級
蘣	概 説	1		<b>第二</b> 開
量为	土地利用と水利	<b>三</b> 第二節	8 昭和後期	3
Ē		<b>三</b>	昭和中期	2
曼	本町農業の特色	第一節	- 昭和前期	1
羮	農 業	第二章	昭	第三節
三萬五	電信電話	2	歴長運動と	: 1
芸	郵 便	1		第二質
盖	通 信	第三節	_	<u>;</u>
景	交通機関の変遷	way 第二節	i i	ļ 3
賣	その他の道	5 元 6	ī 地 「 租	. 2
景	石 鎚 道	1 <del>1</del> 40 5	明治維	1
	松 山 道	등 3 4	節 明治時代	第一節
墨	金毘羅道	11+10 3	一 近代・現代	第四章
룿	へんろ道	<b></b>	3	5
臺	太政官道	<b>三</b> 1	* 庶民生活	4

藩制以前……… 林業の変遷 ……

第二節

至

第五章

エ

令 Ş

6

蘣	行政区画の変遷	<b>第一章</b>	現在の金融機関	3
	地方自治	for 第四編	株式会社伊予周桑銀行	2
公园	宮糀剱所の煙害と農民の戦き	<b>乳</b>	金融業の発生と発展	1
益		<b>売</b>	金 融	第二節
益		<b> 王</b> 第三節	商業の変遷	4
츷	千原鉱山の変遷	翌 第二節	商	3
奈	丹原地区内の鉱業		市	2 1
奈	鉱 業	第六章	冏業の興りと変遷	第一節
츺	丹原町商工会	<b>巻</b> 第三節	商 業	第四章
츺	新産業都市の指定	天0 第二節	森林組合	第四節
층	その他の企業	<b>華</b> 協	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	第三節
츳	電気関連企業	3	日来の印作	<u> </u>
쏦	鉄工関連企業	2	り寺弋・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
출	生活必需品の製造	1	・大圧の寺弋・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3 2
至	工業の変遷	蓋 第一節	制持人	2 1
3				

승	丹原町内の各分団の沿革	3	2 明治二十三年以後 三	
尧	消防の沿革	2	1 戸長制度時代	
七九七	古田・成・辻堂・高座の大火	1	第一節 行政事務機構及び機能	
七九七	消 防	第二節	第三章 町政の概況	
炎	防 犯	2	合併について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
五	警察制度の変遷	1	4 三か町村(丹原町・中川村・田野村)	
芝	治 安	第一節	3 田野村の動向	
支	治安·消防	第五章	2 中川村と桜樹村の合併 七九	
770	会の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の		1 丹原町と徳田町の合併 七号	
			第二節 町村合併促進法による合併 岩	
	叮讨旻・助殳・又入殳・叮寸義		第一節 旧村のすがた	
	知事・県議会議員・郡会議員・	第三節	林。林	
芝	行政委員会	第二節	:	
ž	町村合併後の東政	2	4 戦後の町村合併と県行政の体系 <<	
E 2	オの貝の	<b>?</b>	3 町村制(町村合併) 公室	
	かけな	: 1 1	2 三新法と郡町村の編成	
芸	財 攻	第一節	1 大区・小区制	
宝	行	第四章	第一節 明治以後の行政区の変遷 蚤	

目

次

・   ・   ・   ・   ・   ・   ・   ・   ・   ・		第 第 第 5 第 5 第 5 第 5 2 1 第 5 3 2 1 第 5 3 2 1 第 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	本道施設
医療の変遷	元		<b>民生児童委員</b>
			国民健康保険
一覧			国民健康保険の沿革
丹原町内歯科医	슾		国民健康保険の現状
助産婦	<b>会</b>	第三節	国民年金
伝染病の予防	三	1	制度の概要
概要	=	2	国民年金制度の推移
旧村の医療対策 5天		第八章	選
環境衛生の整備 台		第一節	選挙制度の変遷

圶 슾

소

奎 슾 요

益

8

숯

소 仌 仌 众 ద ద 소

卆

節 町内の各学校沿革史10景	<b>奎</b> 第六節	学校教育と町村財政	5
節 丹原町内の学校沿革1030	<b>参</b> 第五節	学校教育の整備	4
<b>家学前老</b> 產	至 5	教員と学級編成	3
化全门女子	九宝三	教育行政制度 4	2
	- 3	学制頒布	1
	<b>空</b> 2	近代教育のはじまり	第一節
教育制度の改革	<b>空</b>	学校教育	第二章
節 戦後の教育1011	9 第四節	丹原町の寺子屋教育	第一節
يمدير	2000 3	藩制時代の教育	第一章
a 勤労奉仕と学童疎開   100 <sup>1</sup>	2	教育	第五編
▲ 国民学校100%	1	公署旅記⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯	第十章
節 戦時の教育100k	第三節		5 第三節
4 勤労宵年の教育 5夬	분0명 4		5 年 5 年 5 年 5 年 6 年 6 年 6 年 6 年 6 年 6 年
。中等教育	八 <u>元</u> 3		第二市
4 学校における保健衛生	<b>全</b>	徴兵令と血税一揆	第一節
- 教育勅語・御真影の奉戴と式典	<b>公型</b>	徴兵令	第九章
以 著しい著音の多居 ************************************	第二節	選挙管理委員会	第二節

目

次

新興諸宗派の成立―鎌倉時代  臺	4	名勝・史跡	第四節
空海と四国八十八か所 三三0	3	未指定の樹木  三 三	2
代		県・町指定のもの   三0元	1
仏教のはじまりと伝来―飛鳥・奈良時	2	天然記念物	第三節
生活と仏教	1	化 財	第二節
仏 教	第二節		第一節
町内の神社   三量	2	Х	多二雪
神社の由来   三㎝	1	<b>比</b>	<b>育二</b> 章
神 社 ] 三周	第一節	ことわざ・方言   宍ャ	第八節
宗 教 ] 三	第三章	民謡・わらべ歌 三ج	2
馬 塚	6	伝説·民話	1
石造里程標   三三	5	ど	
古文書類 1010	4	伝説・民話・民謡・わらべ歌な	第七節
その他の建築物等  三八	3	美術・工芸   三吋	4
久妙寺の建造物  三 -	2	文 芸	3
西山興隆寺の建造物  三六	1	娯 楽	2
未指定の有形文化財   三六	第五節	芸 能	1

第七節	教員組合と教育会	第四節	解放のあゆみ
1	教員組合の結成と勤務評定闘争 二宝	1	解放政策の推移
2	愛媛県教育会と周桑教育会   1:10	2	丹原町の同和教育
第八節	財団法人佐伯記念育英会	育に扁	<b>己谷・てと</b>
	と郷土出身の教育者 二三	ラフ約	具格・文化
1	財団法人佐伯記念育英会	第一章	生活文化
2	郷土出身の教育者二量	第一節	生活の変化
		1	衣服の変遷
第三章	社会教育11119	2	食生活の変遷
第一節	戦前の社会教育	3	住居の変遷
1	社会教育の推移	第二節	つきあい
2	青 年 団	第三節	年中行事
第二節	戦後の社会教育	第四節	人生儀礼
第三節	社会教育団体と活動   181	1	人の一生の祝いごと
1	戦後の青年団活動   四	2	葬儀と死後の供養
2	婦人会活動二豎	第五節	講
3	老人クラブ	第六節	芸能・娯楽・文芸・美術工

編集後記	第八編	第七編	6	5	4	3	2	1	第三節	7	6	5
	年	未来の	民間信仰…	清正公・1	キリスト教…	出雲大社	天理	金光	その他の宗教	町内の寺は	目覚めるが	統制の仏芸
	表	未来の丹原町	伊	<b>清正公・妙見さん   三九</b>	教	出雲大社教丹原大教会   三六	教	教	の宗教	町内の寺院・堂庵   旱10	目覚める仏教―近代   曇れ	統制の仏教―江戸時代

丹原町誌執筆者一覧